

令和3年度 第1回振興審議会 議事録

- ◆日時 令和3年7月12日(月)午後2時00分～午後3時40分
- ◆場所 議会棟 議員全員協議会室
- ◆委員 出席18名 欠席0名
- ◆事務局 みらい戦略課長、同補佐、企画調整係長ほか事務局1名

〈次第〉

辞令交付 委員を代表して、白岩南陽市長から高橋篤委員に交付

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 委員自己紹介
- 4 会長互選
柴田委員を会長に選出
- 5 会長代理指名
会長代理に池田委員を選出
- 6 協議
池田委員が議長となり、議事を進行
 - 1)第1期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括(案)について
 - 2)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定(案)について
 - 3)その他
- 7 閉会

《議事録》

1)第1期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括(案)について

丸森周平委員)

コロナの影響で令和2年度の実績が落ちたのは分かったので、前期(令和元年度)の数値も併記すると分かり易いのでは。

2)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定(案)について

(菊地清委員)

資料1に基本目標3つあり、資料2には基本目標が4つある。どちらも似ているが、目標を変えて取り組んでいくということなのか。

(事務局)

資料1は平成27年度に策定した総合戦略の基本目標であり、令和2年度で計画期間が終了したもの。資料2は、昨年、こちらの審議会でも何度も協議をし、策定した第2期の総合戦略で、今年度から令和7年度まで

が計画期間のもの。第2期総合戦略は、国の指針を基本目標としている。

(菊地清委員)

第1期と第2期の取組みは同じになるのか。黄色で染められたマスが気になる。

(事務局)

同じ取組は入っているが、例えば、イノシシの捕獲頭数などが新しい取組となっている。これは、第1期策定後の時代のトレンドに合わせて、KPI を考案したもの。

黄色のマスについては、今後見直しをしていく項目。観光客数など、絶対数を求めていくのが時代に合わなくなっていると考え、今年度において数値や項目を検討し、来年度、お諮りさせていただきたい。

(高橋篤委員)

おためし地域おこし協力隊は、報酬があるのか。どのような制度か。

(事務局)

地域おこし協力隊の体験事業。給料は発生しないが、交通費と宿泊費を補助する。今年度既に1名実施している。

(高橋篤委員)

試しにきたが、今後、住みたいと考えた場合、補助等はあるのか。

(事務局)

地域おこし協力隊として赴任した場合は仕事として来てもらうことになるので、給料等が支払われる。一方で、地域おこし協力隊としてではなく、南陽市に住みたいという場合は、例えば、東京から移住し就職場合で、条件が合えばUターン補助金として最大100万円交付されたり、そのほかに家賃の補助制度などもある。

(高橋篤委員)

おためし協力隊は農業以外の全ての産業も対象なのか。

(事務局)

地域おこし協力隊は、昨年、今年は農業関係で募集し採用している。農業関係でのおためしが念頭にあったが、幅広く採用することは可能。

(高橋弘委員)

地域おこし協力隊の活動が見えてこない。地元でも分かるような活動にしてもらいたい。

(事務局)

『地域おこし』なので、地元の理解、協力を得るのが必須と考えている。しかし、コロナ禍で活動報告会などが自由にできない現状もあるので、今後こういった形で協力隊の活動を地元で知ってもらうか、検討していきたい。

(高橋善一委員)

地域おこし協力隊の人が、南陽市の農産品を売りたいとやってきた。宮内でマルシェをするという。うちからも農産品を出したが、南陽市のものを南陽市で売っても仕方ない。秋に川口(埼玉)でマルシェをやりたいと言っていた。今後、住み続けたいと言っている。そういう人は貴重なので、市としてもなるべく協力していくべき。

(船山利美委員)

資料2の改定案について、間伐材搬出は木材価格が高騰しており、需要がある。イノシシの捕獲頭数も、農業者が安心できる捕獲頭数ではない。目標値については、もっと林業者、農業者目線での数値にすべき。人口減少を考えた場合、出会いの場が必要。縁結びのため、具体的な施策に力を入れた方が良い。高校生までの医療費無償化も必要と思う。

(事務局)

出会いの支援については、昨年度から県と協調した結婚新生活支援事業を始めている。条件にあえば補助金を交付するもの。

当該事業は社会教育課の所管だが、移住定住という意味合いで庁内横断的に進めていく。

今年度、教育委員会において第6次教育振興計画を策定する予定であり、その中でも結婚推進の取組について議論いただき、進めていくものと考えている。

(柴田孝委員)

これから市にお金はなくなっていく。市に協力してくれる人もそんなに多くはない。

市は、南陽青年会議所(JC)や地域おこし協力隊の方が活動しやすい環境を整えるべき。市が直接やっても達成できないことを、そういった新たな担い手を育成し取り組むべき。

(高岡亮一委員)

私は柴田先生との考えとはちょっと違って、行政の儉約により失われた30年が起きたと考える。

今は、インフレの心配はないので、どんどん国債を発行し、それを使えばよい。

行政の会合にいても、若い人に勢いが無い。南陽市らしさが感じられない。

本来なら、それらを総合戦略に盛り込むべき。その意味で、四季南陽に期待している。南陽を世界ブランドにするというのは、素晴らしい構想。

(丸森周平委員)

外国人宿泊者数の目標が低いのでは。コロナがなくなれば、1200人(目標値)は軽々と突破できる。

(事務局)

令和2年度の外国人宿泊者数は0人だった。今後、伸びていくことを想定している。LINEの登録数のように、外国人宿泊者数も目標を達成した場合は、次の目標を設定する。そうやって、より高いところを目指していきたい。

(菊地清委員)

シェルター南陽ホールは指定管理者にする構想はあるのか。文化施設の目標値は、指定管理者を想定しての数値か。

(事務局)

現在は直営だが、将来に向けて適切な運営方法を検討したい。

(中村和彦委員)

基本目標に「健康」とか「体力づくり」といった文言が入っていない。コロナ禍では大事な要素。どこかに一筆入れて欲しい。日本一歩く市とか、そういったインパクトがあればよい。

(池田めぐみ委員)

来年度、日本の第3期スポーツ基本計画が開始される。若い世代の運動不足が、将来的な健康に影響を与えるとされている。総合戦略にも、健康、スポーツという要素があればよい。

(事務局)

総合戦略は人口減少対策に特化した計画であるため、「健康」については限られた記載になっている。

総合戦略の上位計画である第6次総合計画において、健康、スポーツの部分を大きく取り上げている。今後10年間の計画として今年度より進めているところなので、ご理解いただきたい。

(菅野直彦委員)

第1期総合戦略では人口目標があった。第2期では触れられていない、違和感がある。人口が増えないと活気も生まれず、産業育成もうまくいかない。人口目標の設定があるべき。

(事務局)

第2期でも人口目標を設定している。配布した資料では、人口目標を設定した第1章「人口ビジョン」部分が記載されていなかったことをお詫びする。改めて配布させていただく。人口目標は、令和7年度において28,000人を目標としている。人口減少は変わらないが、減少を穏やかにするという考え方をしている。

(菅野直彦委員)

人口減少がトレンドなのは分かるが、それでも人口を何とかしなければならない、維持しなければならない。コロナだから、人口減少だからというのは言い訳に過ぎないので、そこを何とかするのが総合戦略だと思っている。

(佐藤奈々子委員)

山形に重度障がい児、医療的ケア児の施設を開設していたが、昨年、南陽市にも作らせてもらった。

安心して子供を育てられる環境をつくるため、障がいを持った子供を持つお母さん達へのサポートが必要。

障がい児のお母さんは、子どもの介護に追われて、子育てを楽しむことができない状況にある。障がい児に優しい街はみんなにやさしい街。そのあたりを具体的に進めてもらいたい。

(黒澤光高委員)

移住という重大な決断をして南陽に来た人のケアは大切。

第2期総合戦略の策定が3月だったが、黄色のセルを変えてくというのは、理由で上げた「実体に応じた対応」とはいうものの、そもそも見通しが甘かったのではないかと。頻繁に目標を変更するという形ではいかげんか。

(事務局)

第1期の総括が改めて出て、コロナの影響が明らかになって、第2期についても継続して取り組むことができる数値に改めていく、という考え方によるもの。

(安部史生委員)

地域子育て支援施設の利用人数は何から拾ったものなのか、教えて欲しい。公民館でやっている相談、支援活動は入っているのか。

(事務局)

入っていない。

(安部史生委員)

自主防災組織の組織率は98.2%だが、活動実績は乏しい。本当に活動できる組織ではないと、安全安心とは言えない。

防災士取得人数についても、防災士として認定されるメリットがどれだけあるのか。防災士だけではなく、地域の人が知識を持って活動、行動することが大事。

(大友太郎委員)

毎年、南陽青年会議所と市長で市長例会を行っている。今年の5月に今年度の市長例会をしたが、その際に第6次総合計画について話をしてもらった。その際に、行政と一緒に2026年の南陽青年会議所60周年に向けて事業をしよう、という話をいただいた。

柴田会長からもあったが、地域の団体が行政と一緒にやっていくような形でないと、南陽市らしさが出てこない。南陽市にはほかにもたくさん素晴らしい団体があるので、そういった地域と協働の取組を総合戦略に取り入れていただきたい。

団体と一緒にやる具体的取組を総合戦略に入れた方が、南陽市らしさが出てよいのでは。

(佐藤廣志委員)

ハイジアパークの取組、四季南陽は本当に素晴らしいこと。

その他に、ワーケーションの取組が必要。東京から2時間ちょっとしかかからない立地に南陽市はある。

コロナ禍により、会社に出てくる必要がなくなってきた。ZOOMなどを使えば何ら生産性に問題はない。ハイジアパークを利用したワーケーションを、みらい戦略として考えてみてはどうか。

その他には、スポーツが必要。スポーツへの取組は他市町との差別化、活性化に繋がる。広島に世羅町という町があるが、ここは駅伝で有名。そういう町おこしもある。

(熊坂好彦委員)

人口減少対策の柱は独自色と考える。地域の魅力発信の上手い市町村は、人口減少率が抑えられている。

かつては企業誘致とか、産業団地整備が産業振興だったが、佐藤委員からあったように、働き方が変わってきている。

観光についても、少人数旅行が主となっている状況がある。付加価値をいかに上手く発信するかと思う。

(沖田志保委員)

全体を通じて、南陽市らしさがもう少し欲しい。

柴田先生がいうとおり、市だけで事業を頑張るとするのは難しい。例えば、結婚推進にしても、成人式での集まりでPRしたり、南陽市役所部の人にPRをお願いしたりなど、得意の人に任せるのが良い。

南陽高校の指標が2つ削除するということだが、それに代わるものは考えていくのか。

(事務局)

毎年高校生アンケートを取る予定。南陽高校の生徒数にも変動があるので、人数がよいのか、率がよいのか、検討していきたい。

(池田めぐみ委員)

たくさんの意見に感謝する。

振興審議会の専門部会のようなものを作って、皆様からより掘り下げて意見をもらうというのも良いのではないか。

3)その他

意見なし。

以上。